

東日本大震災の被災地から市内の「応急仮設住宅」などに避難してきた世帯に無償で使ってもらうため、NPO法人「神戸西・助け合いネットワーク」(須磨区)が、中古家電や家具などの提供を市民に呼び掛けている。冷蔵庫や洗濯機の購入は、着の

東日本  
大震災

身着のまま逃げてきた人たちには重い負担。そこで、同法人は以前からリサイクルのため集めていた家電を避難者に提供しているが、在庫が底を尽き始めており、市民に協力を求めることにした。

(直江 純)

# 避難者に家電、家具を

市は、市営住宅の空き部屋を使う応急仮設住宅の入居者に照明器具、ガスコンロ、こたつ、電気ポットなどを提供。しかし、それ以外の家電などは自己負担となる。そこで、同法人はリサイクル事業で集めた品の無償提供を始めた。

北区の市営住宅に一家5人で入居した西牧純さん(37)の自宅は福島第1原発から約5きしか距離がなく、通帳や年金手帳などは持ち出せないままだった。帰宅できる見通しが立たず、中古の冷蔵庫などを買った。

その後、同法人の活動を知った西牧さん。「勤務先は原発の3次下請けで休業状態。手持ちの現金は心もとないので、もっと早く知っていたら」と残念がり、たんす代わりの衣装ケースを譲り受けた。

同法人は、阪神・淡路大震災をきっかけに結成され、仮設住宅の入居者

## 購入負担重い冷蔵庫など

## 須磨のNPO、提供呼び掛け 応急仮設入居者ら支援



に物品を提供した経緯から、今もリサイクル事業を運営する。今回の震災避難者21世帯に家電などを提供した。

在里俊一理事長(65)は「春は引っ越しシーズン。まだ使える品は阪神・淡路の恩返しと思っせてぜひ提供を」と呼び掛ける。

神戸西・助け合いネットワーク ☎078・795・3786 (午前9時半〜午後5時、土日は留守番電話)

避難者向けに提供されたリサイクル品を選ぶ西牧純さん夫妻 (左) 須磨区西落合2